

聞き書き取材ノート

今回は御池田の山ノ内静子さんにお話を伺いました。



Q 山ノ内さんのお宅には中野竹子が置いていた小さな仏像があると聞きしましたが？

山ノ内：私が聞いた話ではあずかっ
てほしいということ、どこにも
置場がないものだから、昔から
仏さまのところにあげておくの
だけれども。

Q どの位の大きさですか？

山ノ内：小さいものだから。こんな
ちっさいの(指で5cm程度を表現)
Q 静子さんが御池田にお嫁にこらっ
たのはいつだったですか？

山ノ内：昭和24年ごろだな。

Q その時はお姑さんやその上のばあ
ちゃんがいいたのですか？

山ノ内：そう。私のお姑さんとばあ
ちゃんがいらったの。

Q そのばあちゃんから中野竹子の話
を聞いたのですか？

山ノ内：まあ、昔だからそんなに詳
しいく聞いたわけではなくて何か
の話がたときにちょこっとしゃ
べるだけで、そんなに詳しくは聞
いてねーな。

中野竹子のことなんてな、あの頃
はそんなにな。

Q 今、大河ドラマ「八重の桜」が始
まって関心が高まりましたか？

山ノ内：そうだな。家の座敷で書を
書いていたってことだけは聞いて
いたからな。

Q 山ノ内さんのところと竹子が身を
寄せていた玉木家は繋がりがあっ
たのですか？

山ノ内：聞いたことはいないからわか
んないけど、ただ、その桑原タイ
ヤ屋さんのところに泊っていただ
ってというのは、順子さんが言うわ
けな。

私は前の人から山ノ内家に泊っ
て書かいたと聞いたの。

Q ばあちゃんからですか？

山ノ内：うん、ばあちゃんから。昔
のうちのお姑さんのその前のばあ
ちゃんはあるまり詳しいことは言
ってなかったのな。私が嫁に来て
23歳のころ亡くなったから5年く
らい一緒にいたのかな？そんな昔
のことってあんまり、そのばんち
やは言わなかったけれども、ただ
お姑さんが、チラッとそんときに
昔のことをしゃべっただけで。今
みてえに詳しいことは話していな
かったからな。

Q 白虎隊記念館に中野竹子の書を寄
贈していますか？

山ノ内：白虎隊記念館ができたころ
からな、ときどき館長の早川さん
来たりしてただけだよ。

Q 結局、山ノ内さんのところに中野
竹子の遺品があるってことをわか
っていたんですね。

山ノ内：どうなんだか？それはどう
して聞いたんだかわかんないんだ
けど。

Q やっぱ史実に基づいて調べたんで
しょうね？

山ノ内：それはどうして聞いたんだ
か、わかんないけど。

Q お父さんが寄贈されたんですか？

山ノ内：これのお父さん若かったか
ら(息子の健悦さんを指さして)
健悦：あの時あれかい、親父いたの
かい？

山ノ内：いた。とうちゃんがやった
んたべ。

Q 山ノ内家では中野竹子の遺品は宝
物として受け継いでいたのです
か？

山ノ内：別に・・・

Q そんなに関心のあるものではな
かったですか？

山ノ内：はっはは(笑) ただ昔から
あったやつだ。

Q 大河ドラマが始まって、山ノ内さ
んのお宅を訪ねてこられる方はい
ますか？

山ノ内：そうだ(白虎隊) 記念館の
早川さんはたびたび来てらったけ
れど、特にあと他には来らんねー
よな。

Q 集落の方々は中野竹子の書が山ノ
内さんの家にあるとか、手植えの
松があったとかわかっています
か？

山ノ内：わかってんじゃないのか
な？

健悦：だいたい、わかってんじゃない
か。

山ノ内：合気道の本出すときに、あ
れもちょっと書いてあるんだ。

健悦：書いたのか？

山ノ内：うん、書いた。そんなときに
写真撮らせてくるって来て撮っ
てたけど。後、他には村の人来
らった人はそんなに・・・(笑)

Q 毎年、法界寺で墓前祭やっていま
すが参列していますか？

山ノ内：お姑さんが、誘われて行っ
たわけではなかったけど、たまた
ま坂下にお医者さんに行ったとき
に、今日は中野竹子のお参りだの、
お祭りだの、あんだどーってそれ
じゃお参りしていくか。そこに行
ったらしいのなし。

そしたら、そんな時いった人の名
簿、名前書いたべし。それから何
年か丈夫でいるうちは、あの小竹
会には入ってらったの。何年かな。
名前だけは出してたみたい。

Q 先ほど合気道の本を出すときの話
がありました、中野竹子は接点
あったのですか？

山ノ内：それはなかったんじゃない
の。ただその本を出すときに、出
した人が武田さんとの付き合いで
じゃねえの。佐藤さんっていう人
がいたの。

健悦：大東流の顧問になっていたん
でねえの。同じ村だからその関係
でな。

Q 中野竹子が植えた松があると聞い
ていますが・・・？

山ノ内：それもはっきりわかんねえ

の。でもお世話になったから帰って行くときに大野ヶ原から松を担いで来て植えていってくれたの。その松だっけ聞いてるの。私は昔から。



中野竹子が植えたと言われる松（現在は伐採）

Q 中野竹子が担いでここに植えてくれたのですか？

山ノ内：たがってきたんだか、担いできたんだかわかんねえんだけれど。このくらいの松じゃねえかと思っただけだ（バスケットボールぐらいの円を手で表して）そんなおっきなものじゃねえよな。昔、たがってくるぐれえだもの。それを植えた松だと聞いてはいたの。写真撮っておいたかな？

Q 写真があるのですか？それをお借りして使わせてもらいたいんですが？

山ノ内：なにほど大きくなって、そこらへんが松いっぱいになったの。うちのお父さんも手入れするの

人で一週間ぐらいかかったの。枯れてきて切っちゃったのな。

Q 伐採したのは残念でしたね。

山ノ内：毎年こんな太い枝一本づつ赤くなっちゃったのし（ソフトボール大の円を表して）。葉っぱも赤くなってきて枯れると枝切るの大変なんで、枯れねえうちに切ってもらうかなって、切ってもらったんだけど。年に二回松喰い虫の消毒をやってもらったんだけどなあ。なんかもったいない。北側の方からだんだん赤くなって来たんだ。

Q 松のことは、お姑さんやその上のばあちゃんが話していたのですか？

山ノ内：松だけはなあー（笑）そうだって聞いているから。本当にそうなのかなあって（笑）今みたいにトラックも何にもないころだから。どうやって持って来たんだかどんな松もってきたんだかわかんねえんだけども。だからこれ切ったときに年輪数えてみっかあ・・・なんて切り口を数えたんだけども。あのあたりがなにほど細かくて、数えきんにいの、こう九十、百ぐらいまでは数えただけだけれども。あとそのあとは数えられなかった。

Q 生まれたころの弘化何年とかって、百五十年くらいはたっているんですよね。

山ノ内：そうですか。だからお嫁に来た頃からは、そう大きさが変わらない。年輪は外の方が細いから、本当に数えるのにはっきりわかん

なかつたけれども。なんだ嫁に来た頃から変わんねえなあ、と思っただけだ。

Q 竹子が置いていった仏像を見せていただけますか？

山ノ内：ああいいよ、持ってくるからよ。

Q 仏壇ところで写真とった方が良いか？木彫りなんですか？仏像と言っていたので木で彫ったものなのかと思っていました。ずいぶんちっちゃいものですね。

山ノ内：なんか肩身はなさずに、帯の間にはさんでもっていらつたらしいの。



中野竹子の持仏と伝わる仏像

Q 山之内さんの家にも、書が残っているのですか？

山ノ内：二つ。どんなふうにして泊ってたんだかな。それこそ昔の家だからなあ。わかんねえけれども。家に泊めていたんだね。というのだけは聞いていたの。そこで書を書いていった。

Q それは写真撮らせていただいてもよろしいですか？

山ノ内：大丈夫です。

山ノ内：小竹女史が入っているのなし。町の広報に入っていたのは



山ノ内家所蔵の中野竹子書

記念館で撮ってきた写真かな？あれと同じかな？うちのと同じかな？一本だけ小竹女史が入っているの。

Q それは雅号ですか？

山ノ内：家で所蔵していたのは、最後の方に小竹女史ってかかっているの。そして判だけおさっているの。見てみろっせ。

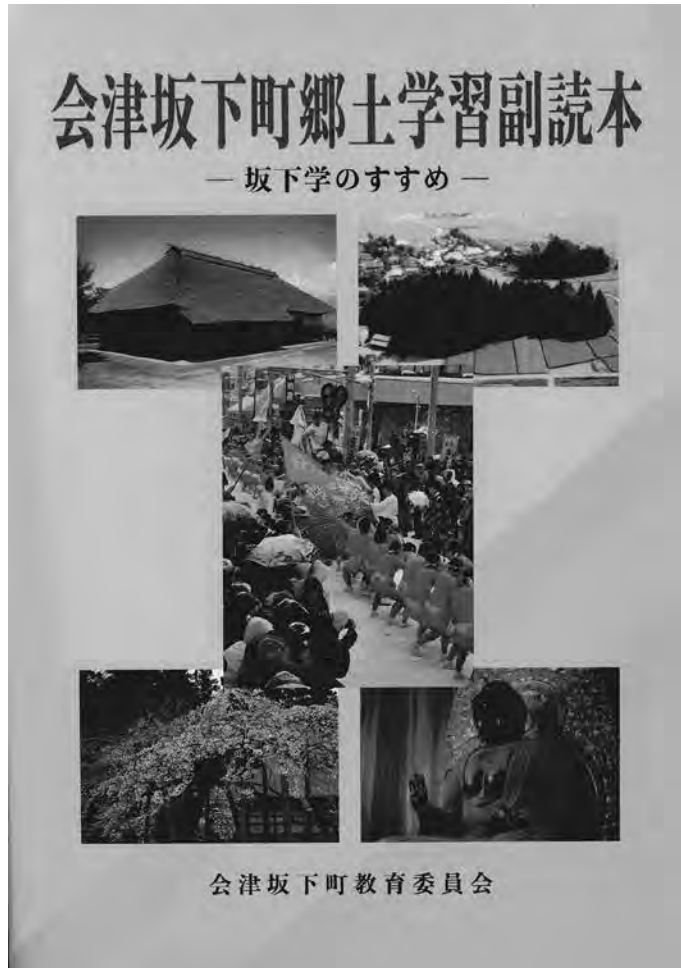
Q 書道に、雅号として小竹と使っていたそうなんです。だから町の顕彰会の名前も小竹会としたと聞きました。

山ノ内：ああ、そうなんだ。

Q どういうわけでこちらの方に来たのか、すごい興味がわきますよね。山ノ内家は江戸時代から農家なのですか？

山ノ内：昔から農家だと思っけれども・・・百五十年前の話で、その気で聞いてねえからわかんないな。

『会津坂下町郷土学習副読本―坂下学のすすめ』



今年の小学三年生に副読本の改訂版『会津坂下町郷土学習副読本―坂下学のすすめ』を配布しました。

この副読本は、一昨年に各小学校の先生方に執筆をお願いして編さんされたもので、三年生から六年生までの授業で使われます。

今までの副読本と違う点は、「坂下学」という副題がついていることです。「坂下学」の目的は、子供たちが自分の住む町に対する興味・関心を高めて、町を知り、愛し、町の未来を考え、発展に尽く

会津坂下町教育委員会

そうとする態度を培うところにあります。そのために、次の三点・子供たちに伝えていきたい「昔の人々の知恵や志」、

見せておきたい「すぐれた生産技術」、実感して欲しい「貴重な自然環境」を「坂下学」の主題としました。子供たちは、この副読本を活用した授業で「坂下学」を学習していくことになり、その内容は、当町の自然、歴史、文化、民俗、産業、生活、伝説、そして人物紹介などに渡っています。副読本の活用は、子供たちの住む地元の事例から、地球の造山

運動によって陸地ができ、やがて人が住み文化が生まれ、今につながっていることを知ることでもあります。

副読本の紹介を兼ねて「貴重な自然環境」の例を上げると、片門の只見川沿いには、「七折坂層」があります。これは、



七折坂層

百八十万年前から七十万年前にできた地層です。小石や松や杉などの葉や実の種が含まれており、湖の中で堆積し、地殻変動や水位の変化で地表に出てきたものと考えられています。

また、洲走にある「山砂採取場」の砂は、約五千年前の沼沢火山（金山町）の



山砂採取場

噴火によるものです。火山灰が20m以上も堆積した場所もあります。この頃は歴史でいえば縄文時代に当たります。縄文に限らず、当町には今も様々な時代の遺跡や遺物が数多く出土しており、当時の生



亀ヶ森古墳古墳(手前)・鎮守森古墳(奥)

活や文化を探る調査が続いています。

さらに、多数の古墳も見つかっています。この副読本では、青津の「亀ヶ森古墳」や「鎮守森古墳」を取り上げています。特に「亀ヶ森古墳」は、平地に造られた古墳としては、東北地方で最大のもので、この事実が、子供たちの好奇心や想像力を呼び覚ますに違いありません。

次回から副読本等を参考として、子供を含めた町民の皆さんのための「坂下学」に触れていきたいと思えます。

問い合わせ先 町史編さん室

83 | 2 2 3 4 (代)



ばんげほいくしよにあそびにおいでよ!

～ばんげ保育所施設開放～

第3土曜日には楽しいイベントを企画いたしました。みなさんぜひ気軽にご参加ください。

時間 9時30分～11時30分

場所 保育所遊戯室・所庭

☆親子・お友達とwaku wakuふれ合い遊び
☆大人同士のdoki doki子育て交流

保育所では毎月第1日曜日・第3土曜日に施設開放をしています。

親子で…お友達と…おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に遊戯室や所庭で楽しく遊んで下さい。

6月22日(第4土曜日)
上手に食べよう おいしいごはん
(食事指導のお話です。)

※6月は保育所の行事で、親子と一緒に楽しめる企画です。

7月20日(土)
おひさまと仲良し!
8月24日(第4土曜日)
おひさまと仲良し!

※7月・8月は水遊びが出来る準備をお願いします。

9月21日(土)
元気いっぱい よーいどん!
※保育所の行事で、親子と一緒に楽しめる企画です。

10月19日(土)(事前申し込み有)
楽しく作ろう おいしく食べよう

11月16日(土)
小さなお話し会
～パート1～

12月21日(土)
サンタさんに会えるかな?
(事前申し込み有)

1月18日(土)寒くなんかないよ!
2月15日(土)小さなお話し会
～パート2～

※月により日程が変更になります。 ◎施設開放日は午前9時～12時まで開放しています。

※飲み物は各自持参してください。

※10月・12月の参加については準備の都合上、早めにお申し込み下さい。

連絡先: 会津坂下町立ばんげ保育所 0242-83-3202



平成24年度 会津坂下町のごみ排出状況

町では、増えつつあるごみの減量化・再資源化をめざして、平成16年に「ごみ処理基本計画」を策定し、平成27年度までに目標を定めています。

表1は、町の家庭系ごみの量とリサイクル率について、ごみ処理基本計画における目標値と平成23～24年度の実績を表にしたものです。

平成24年度については、前年度に比べて家庭系ごみの量は0.08%増加して、3,893.37tとなりました。また、一人一日あたりのごみの量は前年から1.3%増加して、609gとなりました。共に前年よりもわずかに増加になりましたが、もう少しで目標に達成できる状況にあります。

一方で、ごみのリサイクル率については、前年度より0.02%向上し21.42%となりました。可燃ごみも、分ければ資源として活用することができま

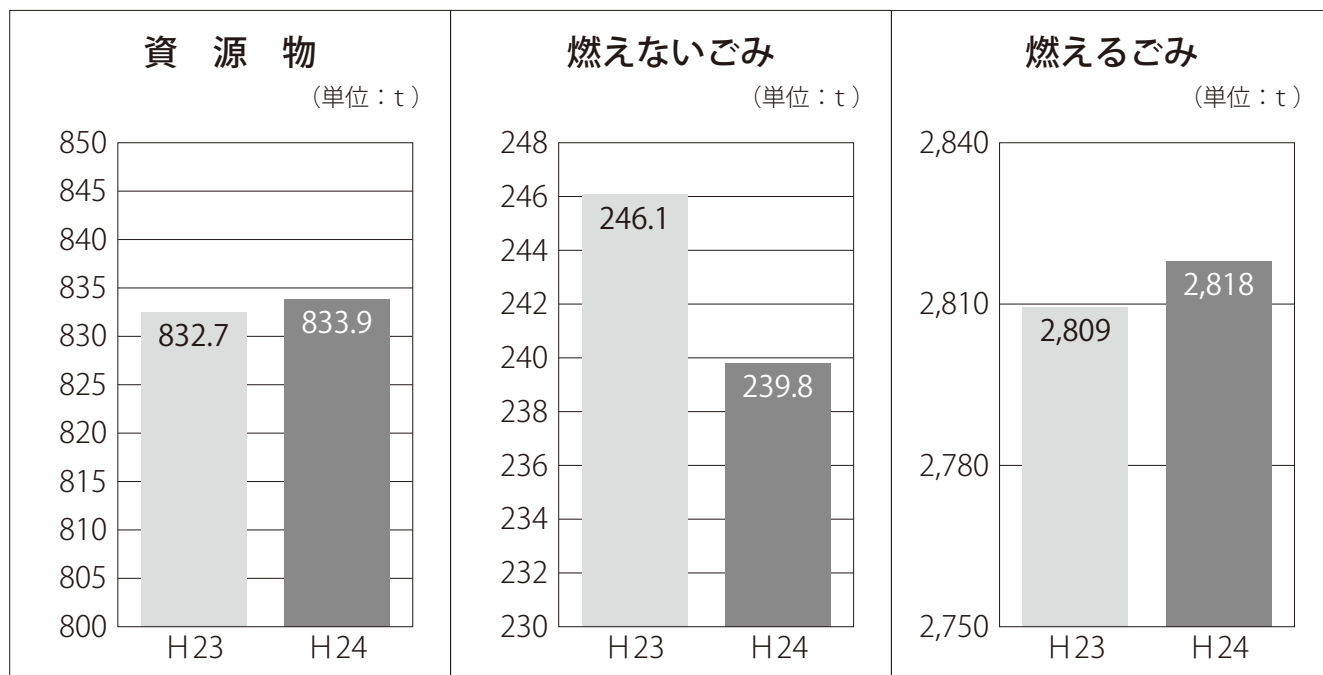
す。ごみに出す前に、もう一度分別できないか確認をお願いいたします。ごみの減量化は一人ひとりの取組みが重要です。ごみの減量化・資源化をめざし、みなさんのご協力をお願いします。

▼問い合わせ先

戸籍環境班 ・ 84-1500

(表1) ごみ処理基本計画における目標と実績 (平成23年～24年度)

項目	目標 (平成27年度)	平成23年度	平成24年度	前年比
町の家庭系ごみの量 (全体量)	3644 t 以内	3890.25 t	3893.37 t	+3.12 t
	(目標との差)	(246.25 t)	(249.37 t)	(+3.12 t)
町の家庭系ごみの量 (町民一人一日あたり)	599 g 以内	601 g	609 g	+8 g
	(目標との差)	(2 g)	(10 g)	(+8 g)
ごみリサイクル率	26.0%	21.40%	21.42%	0.02%
	(目標との差)	(-4.60%)	(-4.58%)	(-0.02%)



5月号から始まりました会津坂下町や湯川村の方が道の駅をどう思っているのか、地域の方々にリサーチした「道の駅インタビューコーナー」です。今月号は、湯川村沼ノ上在住の大久保朋洋さん、会津坂下町福原在住の長峯伸さんにお話を聞きました。



大久保朋洋さん

○大久保さんは花を中心に農産物を生産しているんですか？
大久保…春はアルストロメリア、夏にトルコギキョウ、その後トマト、冬にレタスを栽培しています。
○道の駅ができたなら、ハウスで栽培している花などは出荷したいと考えていますか？
大久保…ぜひ出荷したいと考えています。
○野菜などは加工品でも販売できるという選択肢もありますが、花は生花で出荷する以外に加工して販売することはできそうですか？
大久保…花は加工といっても花束くらいしかありません。イベントや記念日に合わせてフラワーアレンジメントや花束を売ることができると思います。8、9月には花フェアイベントを開催

して道の駅に地域の花を集めると面白いかもしれません。

○その他花を切り口にしたいイベントは何か考えられますか？

大久保…バレンタインデーの時にフラワーアレンジメントを作って渡すことや、収穫体験も兼ねて畑に行き、花を切り取って自分で花束を作ること考えられます。道の駅を起点に数軒の農家を回り数種類の花で花束を作ること、面白いと思います。花だけでなく野菜も収穫して農産物セットで販売もできそうです。また今、花屋さん結婚披露宴に向けて結婚する2人が畑で収穫体験しブーケを作ることができないか相談しています。

○今整備している道の駅では、農産物を出荷し販売するだけの場ではなく植物を育てる講座や講習会の開催を考えていますが、道の駅は地域の方々にとってどのようなものになって欲しいですか？

大久保…道の駅は情報発信の場だと思います。道の駅でもその地域の色々な情報が集まっているところは面白いと感じます。どこにもあるような物や品揃えだとならない。例えば季節ごとに商品や店内を模様替えすること、また行ってみたいという気持ちになるのかなと思います。また花の飾り方講座や子供たちを対象とした「花育」もできたらいいなと考えています。講座や講習会が道の駅で企画された場合は、時間が合えば協力したいと考えています。



長峯 伸さん

○長峯さんは農業を中心にどのような活動をしていますか？

長峯…メロン栽培を中心とした農業経営に農家民泊を組み合わせています。

○農家民泊を始められたきっかけは何ですか？

長峯…仕事を辞め父親の跡を継いで農業に従事するようになり、メロンを作るだけではもったいないと思い「メロンスクール」という栽培技術を教える講座をビジネスモデルの中に組み込んでみようと考えたことがきっかけです。

○民泊する方は口コミが広まって来ているんでしょうか？

長峯…会津坂下町グリーンツーリズム促進委員会からの斡旋とリピーターの方が多いです。

○リピーターの方は第二の故郷と感じてくれているのでしょうか。

長峯…神奈川県の方が宿泊された後、メールで連絡が届き「神奈川県の実家に帰ったがホームシックになりました」と言ってくれました。そこが目指すべきところなのかなと思います。

○道の駅で情報コンテンツの一つとして農家民泊を紹介したいと思っていいます。そのほか道の駅にこんなものがあれば、利用者が増えそうなアイデアはありませんか？

長峯…道の駅に滞在する時間が長くなるようなスペースがあればいいのかなと思います。アクション数を増やすことで滞在時間が長くなります。ものを作ったり、ものを育てたりなどは都会ではしにくいことなので、道の駅は買い物するスペースだけではなく、道の駅がその起点となって紹介する場であったり、湯川村・会津坂下町の情報を発信してほしいと思います。その場合、受け入れる側の受け皿がしっかりしていないと難しいし、またうまくいかないと思います。

○道の駅でも滞在できるアクションの一つとして会議室を活用し、講座や講習会を開催したいと考えています。

長峯…会津坂下町の中でも商工会青年部主催の「青年部だいがく」をはじめ、いくつか講座が行われています。それぞれの講座を巻き込んで道の駅から発信できれば面白いと思います。地域の財産である郷土料理の講習会などは是非開催してもらいたいです。

ばんげの味が育てる その42 おいしい楽しい健やかライフ



～6月は食育月間・毎月19日は食育の日です～

町は将来を担う大切な子どもたちが健康で心豊かな暮らしができるよう、ばんげの味が育てるおいしい楽しい健やかライフを基本目標とした「第2次食育推進計画」を策定し、引き続き次のような活動を行なっていきます。家庭や学校・職場など地域を挙げ町民運動として食育の普及に取り組んでいきましょう。

目標1 食事を楽しもう

毎月19日の「食育の日」を「家庭料理の日」とし、テレビを消して子どもたちの話に耳を傾け、会話を楽しんで家庭料理を家族みんなで囲んで食べるように町全体で取り組みます。



目標2 規則正しい食習慣を身につけましょう

規則正しい生活リズムの定着に努め、地元産の米を主食とした日本型食生活の推進を図り、バランスよく食べていけるように働きかけます。

目標3 自然の恵みやいのちの大切さを感じる力を育てよう

日本有数の稲作地帯である我が町の環境を生かし、米や農作物の栽培を身近に体験したり、地場産品の上手な利用と郷土料理など伝統食の食文化を次世代につなげていきます。

食育とは

食育基本法では『「食育」を、生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基本となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。』としています。～食育の主役は皆さん一人一人です。～

☆☆6月19日（食イクの日）おすすめレシピ☆☆

じゃがいもお焼き

材料（約8枚分）

じゃがいも	400g
長ねぎ	70g
ちりめんじゃこ	10g
薄力粉	50g
海苔	適量
塩	少量
（1枚 67kcal）	

作り方

- ① 長ねぎを小口切りにし、海苔は適当なサイズに切っておく。
- ② じゃがいもの皮をむき、すりおろす。
- ③ ②に長ねぎ、ちりめんじゃこ、薄力粉を入れ、ざっと混ぜる。
- ④ 温めたホットプレートに200℃程度に温め、③を5～10cmくらいの丸にしてのせ、両面を焼く。（フライパンにクッキングシートをしいて焼いてもOK）
- ⑤ 両面に焼き色がついたら出来上がり♪



*すりおろしじゃがいもで食感もちもちり！具材はさくらえびやひじき等、アレンジできます。

【問い合わせ先 健康管理センター TEL83-1000】



中央公民館

図書室だより Vol.36



中央公民館図書室 TEL 83-3010 (定休日:毎月第2火曜日)

6月19日は何の日か知っていますか？

日本朗読文化協会が制定した『朗読の日』だそうです。

本を読む機会は多くても、声を出して読むことは大人になるとほとんどなくなります。

実は「朗読」は、お腹からしっかり声を出すことで腹筋が鍛えられ、加えて脳の活性化につながるともいわれています。

ぜひ声に出して、聞き手に伝えるように、本を朗読してみませんか？

『朗読』におすすめの本

『声に出して読みたい日本語』

齋藤孝／著 草思社



誰もが親しんだ名文・名句を集めた暗誦用テキスト。暗誦教育の復権を提唱して、日本語ブームを巻き起こした、ベストセラー本です。

『よだかの星』(宮沢賢治絵童話集；2)

宮沢賢治／[作] くもん出版



醜いゆえ、鷹から名前を変えないと殺すと脅されたよだかは、このような悲しみの関係からのがれたいと願って天空の世界へと向かう。

新着本の紹介

『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』

村上春樹／著 文藝春秋



自分は中庸で色彩がないと思っている多崎つくるとは、大学時代に受けた4人の親友達の理不尽な絶交の理由を知るために「巡礼」の旅にでる。

『桜ほうさら』

宮部みゆき／著 PHP 研究所



父の汚名をそそぎたい。そんな思いを胸に秘めた笙之介は、深川の富勤長屋に住み、写本の仕事で生計をたてながら事件の真相究明にあたる。

～図書室からのお願い～

梅雨の季節、雨などで本を濡らしてしまわないようご注意願います。

次の人が気持ちよく読めない状態まで本が濡れてしまうと非常に困ります。

また雨だけでなく、冷たい飲み物を一緒にかばんに入れておくと、ボトルの外に出来た水滴で本を濡らししまうこともありますのでお気をつけください。

